

ば恐らく所傳の如く、近代の何時の頃かに其處から世上に流出したものと見做して差支ないものと思はれる。たゞ塔内諸像の配置は各本尊を除いては可成交互に入亂れて居る様であるから、之が何れの面に置かれてあつたかは今定め難いが、とにかくその複原に役立つ資料の一とさるべきものであらう。

尙ここに所傳に於ても、製作法、様式に於ても童女像と條件を同じうする塑像を東京美術學校藏品中に見る。之は高さ二一糎ばかり羅漢の啼哭する様を寫せる小像であるが、その寫實の妙は童女像に劣らぬ秀逸なるものにして、着色剝落し、埴土があらはになつてゐる。今塔内に於てこれと類似像のある北面涅槃像土中に之を置くもいささかも不釣合を感じない。即ちこれ又所傳の如く法隆寺塔塑像群の一つと見て難無かるべく、その像形よりして恐らく涅槃像土に置かれて居たものであらうと思ふのである。

たゞ二像の土に多少の差異が窺はれる。即ち童女像はやゝ赤味ある灰色であり、羅漢像はわずかに緑色を帯びた灰色をなしてゐる。併し法隆寺五重塔塑像群も必しも一樣の埴土のみでない事はその調査に當つた人々の所見にも聞くところであつて、この二像の土が塔中の如何なる群と近いかを調べて見るならば、更にこれらの所屬を明瞭にし得ると思ふが未だその機を得てゐない。

美術研究所時報

美術懇話會は九月二十九日上野精養軒に於いて開催、川端龍子氏の「北支見聞談」の講演を聞いた。

寄贈圖書

佛國寺と石窟庵
南明寺國寶建造物本堂修理工事報告書

美術研究所時報

朝鮮總督府
文部省宗教局保存課

國寶興隆寺本堂修理工事報告書

浮世繪界 三ノ九
史蹟名勝天然紀念物 一三ノ九

白磁 一〇ノ三
工藝ニュース 七ノ九

國史學 三五
漆と工藝 四四七

汎工藝 一六ノ八
道場 二

日本建築士 二三ノ三
藝術資料 三ノ七

建築雜誌 六四二
書道 七ノ一〇

美術眼 二ノ一〇
美術世界 二ノ一〇

書畫骨董雜誌 三六四
燒もの趣味 四ノ一〇

アトリエ 一五ノ一四
Pantleon, Vol. 22, No. 8, 9

Bulletin of the Metropolitan Museum of Art, Vol. 33, No. 8
Berliner Museen, LIX Jahrg., Heft 3

Museum News, No. 83
The British Museum Quarterly, Vol. 12, No. 3

Honolulu Academy of Arts, Vol. 6, No. 3

文部省宗教局保存課

美之國 一四ノ九
教育美術 四ノ九

文部時報 六二八—六三一
國際建築 一四ノ九

藝術日本 四〇
美術幣 一三ノ九

美術幣 二三四
美術界 八ノ五

三田評論 四九二
茶わん 九三

塔影 一四ノ九
みづゑ 四〇四

史學研究 一〇ノ一
學校美術 一二ノ一〇

圖畫と手工 二三二
林泉 四六

國寶 一ノ五